

大切な美しい森林を 火災から守ろう



消防だより 消防本部予防課
☎22-0332 FAX22-9427

春は、山火事（林野火災）が多く発生する時期です。枯葉が地上に積もり下草も枯れているうえ、降水量も少なく空気が乾燥し、季節風が吹くなど、林野火災が発生しやすい気象条件と、火入れや、山菜取り、ハイキングなど、山に入る機会が増えることが要因と考えられます。

令和2年中の全国の林野火災発生状況は、出火件数1,239件（前年比152件減少）、焼損面積は約449ha、死者は5人です。

出火原因は、「たき火」が410件で、全体の33.1%と最も多く、次いで「火入れ」「放火（疑い含む）」「たばこ」の順で、そのほとんどが不注意などによるものです。

林野火災を未然に防ぐ6つのポイント

- ☑ 枯れ草などのある火災が起こりやすい場所では、たき火をしない。
- ☑ たき火など火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火する。
- ☑ 強風時および乾燥時には、たき火や火入れをしない。
- ☑ 火入れを行う際、許可を必ず受ける。
- ☑ たばこは、指定された場所で喫煙し、吸いがらはず消して、投げ捨てない。
- ☑ 火遊びはしない、させない。

森林は、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素を吸収し、生命に必要な酸素を供給する貴重な資源で、一度焼失してしまうと、その回復には長い年月と多くの労力が必要となります。

林野火災の大部分は、皆さん一人ひとりの注意で防ぐことができます。貴重な人命や財産を火災から守るため、林野での火気の取り扱いに注意しましょう。

危険物取扱者試験（乙種第4類） 予備講習会

- 📅 4月24日(日) 9:00～17:00
- 📍 消防本部（西今町）定 50人（先着順）
- 💰 5,000円（彦根防火保安協会会員事業所は3,000円）※テキスト代は別です。
- 📅 4月4日(月)～22日(金) 8:30～17:15（土・日曜日を除く）
- 📍 彦根防火保安協会事務局（消防本部消防総務課内）
- ☎ 22-0314 FAX 22-9427

チケット情報

ひこね市文化プラザ

6月12日(日)11:30/15:00 グランドホール

爆笑!!お笑いフェス in ひこね

出演者:
ナイツ、U字工事、
モグライダー、真空ジェシカ、
トム・ブラウン、吉住、ダニエルズ、
タイムマシーン3号、
東京ホテイソン、ランジャタイ、
パーパー、やす子ほか
（※都合により、出演者が一部
変更になる場合があります。）



指定 [4月2日(土)9:00～予約開始] 一般4,070円
※3歳以上有料、3歳未満入場不可

📍 託児あり(3歳未満・有料・要予約)

申込・お問い合わせ先 チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)
チケットはインターネットでもご購入いただけます。https://bunpla.jp/

4月の休館日：4日(月)、11日(月)、18日(月)、25日(月)

【ひこね市文化プラザ各公演 発売初日の予約の取扱い】
※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

【ひこね市文化プラザ・みずほ文化センターでは、次の感染症対策を実施しています】▶館内設備の定期消毒 ▶手指消毒液の設置
▶飛沫飛散防止カーテンの設置 ▶非接触型体温計の常備 ▶新型コロナウイルス感染拡大防止システム「もしサポ滋賀」の表示の設置

みずほ文化センター

5月28日(土)14:00 多目的ホール **小学生以上** 託児あり(有料・要予約)

彦根亭 みずほ密席 Vol.43 梶内公嶺

お馴染みの松竹芸能の愉快な面々が笑いを届けます。
出演者：たらちね/ハイアウト(漫才)、笑福亭生寿/笑福亭学光(落語)
自由 【好評発売中】前売500円、当日600円

6月18日(土)14:00 多目的ホール

人形劇むすび座 おさんぽ劇場 「どんどこももんちゃん」「カミナリカレー」

絵本でも親しみのある「ももんちゃん」が登場します。
幼児・児童向けの人形劇をファミリーでお楽しみください。

自由 [4月16日(土)～販売開始]
前売500円、当日600円
※大人も子どもも同一料金
※2歳以上有料



申込・お問い合わせ先 みずほ文化センター
☎43-8111 (9:00～17:00)

4月の休館日：5日(火)、12日(火)、19日(火)、26日(火)、30日(土)

◎表記の価格は全て税込価格です。
◎入場制限のある公演は、託児サービスを実施します。
子ども1人1,000円。各ホールまで事前予約が必要です。

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

https://hikone-castle-museum.jp/

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)



博物館だより

4月12日(火)まで
「合戦の現場－井伊家の軍勢と集団戦－」
将の位置を示す旗や兵に指示を出す采配をはじめ、集団戦で用いられた武器を通じて合戦における井伊軍の実態に迫ります。

4月15日(金)～5月15日(日)
「国宝・彦根屏風」
近代初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。



▶彦根屏風
■スライドトーク
【日時】4月16日(土)14:00～(30分程度)
【解説】当館学芸員 【場所】講堂
※無料(観覧料は別途必要)
※当日受付(先着35人、受付は13:30～)

令和4年度
「古文書のみかた」を開催します
当館所蔵「彦根藩井伊家文書」などをテキストに、古文書解読方法を基礎から学びます。

【開催日程】
5月28日、6月11日、7月2日、同16日、8月27日、9月24日
(全6回) いずれも土曜日の14:00～16:00
【場所】講堂 【講師】当館学芸員
【テキスト代】500円
【定員】30人(応募者多数の場合は抽選)
【申込期間】4月1日(金)～同22日(金)(消印有効)
【申込方法】
▶往復はがきの往信の裏面に①住所②氏名③電話番号を、
返信の宛名欄に①住所②氏名を書いて「古文書のみかた」
係へ郵送(〒522-0061金亀町1-1、1人1通)
▶彦根市電子申請サービスから申し込み

■【休館日のお知らせ】4月13日(水)
■4月12日(火)、同14日(木)は、展示替えのため一部休室します。

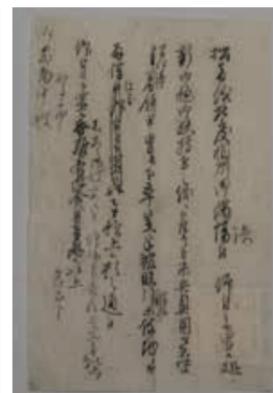
戦場の藩医 池田愿同

現代の私たちは、怪我や病気をした時などに、医者に診てもらいます。そのような時に、普段からかかりつけの医者があると心強いものです。江戸時代でも、各大名家には、藩医という、藩お抱えの医者がいました。

彦根藩も多くの医者を抱えており、当館所蔵の「彦根藩井伊家文書」には、藩が召し抱えた31家の医者の家が収録され、各家の履歴が記されています。同資料によると、今回紹介する池田愿同は、愛知郡元持村(愛荘町)の出身、代々医業を勤めた家で、幕末の嘉永3年(1850)、「医師格」として3人扶持(米5石4斗)で彦根藩に召し抱えられた、とあります。その後、愿同は彦根藩士の診察を行い、安政4年(1857)には「奥御医師」(藩主やその家族を診察)になり、慶応4年(1868)には「外科兼帯」を命じられます。

こうした愿同の医者としての活動の中で目を引くものが、嘉永5年暮に命じられた相州詰です。相州詰とは、江戸湾への外国船来航に備えた相模国(神奈川県)の海岸警備のことで、弘化4年(1847)から嘉永6年まで、井伊家は幕府の命によりその任にあたりました。医者である愿同が、戦場となることも想定される警備に動員されたのは、従軍医としての役割を期待されていたことでしょう。

写真の古文書は、常設展示「古文書が語る世界」で、4月14日(木)～6月19日(日)まで展示します。



▲池田愿同願書案 (嘉永6年正月14日付)

嘉永6年正月14日付の願書案(池田愿同家文書)で愿同は、自分は新たに召し抱えられたばかりで、まだ甲冑や陣笠、半被や股引などの用意ができていないので拝借したいと家老に願っています。これらのものが、戦場に臨む兵士が本来は自前で用意しなければならぬ基本的な装備だったとわかります。

医者である愿同が武器に身を包む姿には、現代の私たちは違和感を覚えるかもしれません。大名家という軍事集団の規律の中では、医者であっても彦根藩の軍隊の一人として他の兵士同様の装備を用意して戦場に臨むことが求められたのです。

【彦根城博物館学芸員 竹内光久】

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

第307回